

## Let's think about our food. (守谷市立守谷小学校 川田 雅俊)

### 【実践者】

氏名	川田雅俊	学校名	茨城県 守谷市立守谷小学校
担当教科等	外国語	対象学年(人数)	6年 2組(36名)
実践年月日もしくは期間(時数)	R5年11月～R5年12月(5時間)		


### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域: 英語/総合	
2. 単元(活動)名: Let's think about our food.	
3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ: 「食糧問題について私たちができることを ALT の家族に動画で発信しよう。」 単元目標: 食料問題について、児童自身ができることを考え、発表することができる。 関連する学習指導要領上の目標: 「身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。」(『小学校学習指導要領』第2節 英語、1目標、(4)話すこと[発表] ウ)	
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能 ・今まで学習した語句や表現を使用して、発表ができる。
	②思考力、判断力、 表現力等 ・今まで学習した語句や表現を使用し、聞く相手の立場を意識して、自分で調べたことや、クラスメートの考えを参考にしながら、話す順番や、話す情報を整理して発表している。
	③学びに向かう力、 人間性等 ・よりよい発表をしようとするために情報を調べ、いい発表をしようとしている。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】 食糧問題は、日本でも世界でも取り組むべき重要な課題の1つである。今後児童が持続可能な社会に貢献する必要があると自覚し、行動していくことを期待し、この単元を設定した。</p> <p>【単元の意義】 児童は、自分が「残さずにご飯を食べること」が地球温暖化対策になるという意識はあまりない。そんな中、自分が他の誰かにメッセージを発信することで、フードロスや食糧自給率についての問題を自分ごととしてとらえるきっかけになるのではないかと考えている。</p> <p>【児童/生徒観】 6年2組の児童は、落ち着いて黙々と学習に取り組むことができる児童が多い。一方、周囲に気を使いすぎてしまい、友人同士でコミュニケーションをとることに苦手意識をもっている児童は少なくない。英語に関して、授業が好きな児童は約84%である。「話すこと」、「聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の中で「聞くこと」が一番得意だと回答する児童が46.9%と最も多く、一番苦手なのは「話すこと」だと回答する児童も46.9%と最も多かった。</p> <p>【指導観】 AIの絶え間ない技術革新などによって、学校において獲得する知識の意味に大きな変化をもたらすのではないかとされている。しかし、どれほど技術が進化し、AIがどれだけ進化し思考できるようになっても、そのAIを使うのは人間であり、使う目的は人間が決める。従って、私たちが今いる場所をよりよい場所にするために、人同士の関わりは無くなるのではなく、今後</p>

も変わることのない大切なことである。以上のことから児童には、国や文化が異なる人同士が関わる時、適切な発信の仕方とはどんな発信かを考えさせたい。


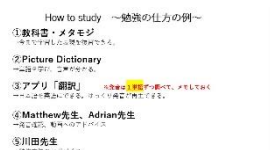
6. 単元計画(全4時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	英語 「ラオスってどんな国？」	世界には様々な文化・生活があることを知り、これからの国際協力のあり方について考えることができる。	・実際に授業者が見てきたことを話し、ラオスという国について、知る。 ・説明を聞いて、ペアで印象に残ったこと、日本との違いなどクラスで話し合う。	・ラオス研修報告の動画  「ラオス研修の動画」
2	総合 「グローバルに働くには」	ラオスで活躍する橋詰さんの話を聞き、人によって価値観や考え方が異なることを知る。	・オンラインでラオスにいる JICA 職員の橋詰さんをつなぎ、海外で活躍する橋詰さんの講義を聞く。 ・ラオスの人は、どんな価値観をもち、どんな考え方の違いがあったかなどについて振り返る。	・プレゼン資料   「プレゼンのスライド」
3	英語 「食糧問題について私たちができることを動画で発信しよう。」	食糧問題について私たちができることを ALT の家族に動画で発信できる。	・1時間目、2時間目の授業を踏まえて、児童がそれぞれ食糧問題とは何かを調べ、自分が問題解決するために何ができるかを動画で記録する。	
4	英語 「異文化の中で信頼を気付くコミュニケーション」	青年海外協力隊の扇澤さんの話を聞き、異文化コミュニケーションについて考える。	・オンラインでジョージアにいる青年海外協力隊員扇澤さんをつなぎ、ワークシートを記入しながら講義を聞く。 「ワークシート」 	・ジョージアの学校や食べ物の写真や、伝統的な踊りの動画  「ジョージアの学校」  「ジョージアの食べ物」

			<p>「ジョージアの踊りの動画」</p> 	
5 本時	英語 「相手に 内容が伝 わるよう に、発表 の仕方を 改善しよ う。」	相手に内容が伝わる ように、動画を改善 する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で自分が記入したワークシートと、自身が記録した動画を振り返り、発表方法の改善点を考える。(この際、改善点を考える道具として、PDCAサイクルについて説明する。)</li> <li>・具体的な自己評価をシートに記入する。</li> <li>・振り返りに基づき、児童がそれぞれ動画を撮影し直す。</li> <li>・今回の一連の学習について、学んだことを振り返る。</li> </ul>	・前時のワークシート (異文化コミュニケーションについて)

7. 本時の展開(5時間目)

本時のねらい:相手に内容が伝わるように、発表の仕方を改善しよう。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (7分)	1、あいさつ		
展開 (30分)	2、「Today's Goal」を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">相手に内容がより伝わるように、発表の仕方を改善しよう。</div>		
	3、前時で学習した「異文化コミュニケーション」について、よく書けている児童の例を見せながら、振り返る。  4、本日の活動について説明する。 4-1 以下を自己評価するように伝える。 <評価基準> ・Kindness(相手の立場に立てたか) ・Fluency(流暢さ) ・Pronunciation(発音) ・Easy to Understand(分かりやすさ)  4-2 提出の時間を確認する 中間確認:授業終了 15 分前 最 終:授業終了 8 分前  4-3 学習方法をパワーポイントで提示	事前に、例として使用する児童には確認をとっておく。    「Self-Evaluation Sheet」  児童には、最初から5分前の提出を目指す、必ず提出できないため、1回目は15分前が最終期限だと伝える。その後、延長して8分前にする。	メタモジ【「ジョージア」ワークシート」  
まとめ (8分)	5、児童が各自活動に取り組む。  6、一連の活動で学んだことをふりかえる。		「How to study」
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 知識・技能:今まで学習した語句や表現を使用して、発表ができる。 →提出動画 思考・判断・表現:今まで学習した語句や表現を使用し、聞く相手の立場を意識して、自分で調べたことや、クラスメートの考えを参考にしながら、話す順番や、話す情報を整理して発表動画を改善できる。 →提出動画 学びに向かう力、人間性等:相手にいい発表をしようと前向きに情報を調べ、いい発表をしようとしている。 →観察			
9. 学習方法及び外部との連携 ・単元計画の2時間目には、JICA の「病院の保健医療サービスの質および財務管理改善プロジェクト(QHCF)」で活躍している橋詰さんから、「国際的に働くには」というテーマで、ラオスの食文化と合わせて、講演をしていただいた。4時間目には、スクールソーシャルワーカーとして、青年海外協力隊でジョージアに派遣されている扇澤さんから、「異文化コミュニケーション」をテーマに講演していただいた。			

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

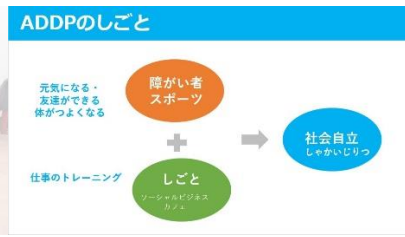
・校内にて、次の取り組みを実施、または実施予定。1学年：海外の国紹介。2学年：ラオスの絵本読み聞かせ。3学年：タイの学校との文化交流（日本語での地域自慢）。4学年：ラオスを中心に活動している NPO 法人 ADDP 代表の中村様によるオンライン講義（インクルーシブ教育について）。5学年：ラオスを中心に活動している NPO 法人 ISAPH の石塚様によるオンライン講義（SDGs の具体的な事例提供）



「ラオスの絵本」



「中村様のスライド①」



「中村様のスライド②」

【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<p>まず、外国語のカリキュラムの中にある「異文化理解教育」の実施計画を考えることが難しかった。特に、まだ英語の知識が少ない児童に、言語学習を通して、国際教育をどのように実施するか考えることに苦労した。その中で、“Let’s think about our food”という単元であれば、食料問題と関連づけられると判断した。また、今回の単元を実施する際、「国際教育」に加えて、自分の能力に応じて学習方法を変える「個別最適化学習」もテーマとしていた。従って、英語を自ら伸ばすことのできる児童の育成を目指し、「勉強の仕方」を学ばせることもねらいとしていた。そんな中で、翻訳サイトや翻訳アプリの使用を許可したが、過去に学習したフレーズを使用させることが難しかった。今回の学習では、発表の文章の量を指定していなかった。それは個別最適化を目指したからである。しかし、児童の特徴として、話す原稿をたくさん作ってしまい、それを話す練習に時間を費やさなかった。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>より児童が話すことに重きをおくため、児童が英文を作るのではなく、話すことに時間を費やすようにするための工夫が必要である。具体的には、文章の数を3つ、などと指定したり、原稿を考えるのはいつまで、ここからは話す練習、というように、今日は何をする時間なのか決めたりといったことを、子どもたちが自分で決められるようにサポートする。教師が決めてしまえば簡単だが、以上のようなことを児童自身が考えて決められるようにすることは今後もこだわり、試行錯誤していきたい。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>国際的なテーマである「食料問題」について、現状や私たちができることを児童が自ら調べ、英語にし、発表するために発音を練習することを学ぶことができた。また、一度提出した動画をもう一度確認し、「聞く相手（フィリピン在住の ALT の家族）の立場に立っているかどうか」「流暢さ」「発音」「わかりやすさ」の観点から自己評価をし、自己評価に基づいてもう一度動画の改善に取り組むということができた。また、異文化の初対面の人に対し、どのような点に気をつけてコミュニケーションをとればよいかや、ラオスやジョージアではどのような日本と違う文化があるのかを、外部講師によるオンライン講義を通して学ぶことができた。</p>
<p>14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）</p>	<p>以下、児童の感想である。「ラオスやフィリピンのような発展途上国と日本の食料問題が違うことが分かった。」「実際にラオスに行った川田先生や、ジョージアに住んでいる扇澤さんから話を聞くことで、日本と違う文化を知ることができた。ラオスやジョージアに行ってみたい。」「ジョージアという国を知らなかったが、日本のアニメや文化が広がっていてすごいと思った。」「学校で教わっていない言い方も自分で調べることができたが、それを実際に話すのが難しかった。」</p>

15. 授業者による自由記述	<p>今回の授業のテーマは「異文化理解教育」と「ICT による個別最適化学習」であった。今回強く感じたのは、「異文化理解」と「言語教育」の強い関連である。異文化に興味関心のある児童は英語への関心が強く、逆もまた同様であった。したがって、どちらが先かは不明だが、このいずれかに児童の意欲を持たせることができれば、良い循環ができるのではないかと。また、八島智子「国際的志向性」と英語学習モチベーション」にも「国際的志向性」が「英語学習意欲」と深い関連があるとあった。授業実践が終わった今、ラオスでの海外研修を思い返すと、今後自分が授業を実践するための考え方に大きな影響を与えた。具体的には、教師としての教育にかける想いの確認、子どもたちが、世界中に人とつながってほしいという願いの再認識である。これは、共にラオスで時間を過ごした参加者や、この研修をよりよいものにするために尽力して下さった方々のおかげであることに他ならない。帰国してからまた多忙な日々を過ごしているが、研修で感じたことを忘れず、授業を通し、世界とのかけ橋になるため、より一層邁進する所存である。</p>
----------------	--

参考資料:

(1) 八島智子 “「国際的志向性」と英語学習モチベーション” 外国語教育創刊号(2001)

[https://www.kansai-u.ac.jp/fl/publication/pdf\\_education/01/33yashima.pdf](https://www.kansai-u.ac.jp/fl/publication/pdf_education/01/33yashima.pdf)

(2) 株式会社野村総合研究所 “用語解説 PDCA サイクル”

<https://www.nri.com/jp/knowledge/glossary/lst/alphabet/pdca> (参照 2023-12-10)

添付資料:

【資料1】How to study

【資料2】Self-Evaluation Sheet

How to study ～勉強の仕方の例～

- ①教科書・メタモジ  
→今まで学習した表現を復習できる。
- ②Picture Dictionary  
→単語を学び、音声がかかる。
- ③アプリ「翻訳」 ※発音は1単語ずつ調べて、メモしておく  
→日本語を英語にできる。ゆっくり発音が再生できる。
- ④Matthew先生、Adrian先生  
→発音確認、動画へのアドバイス
- ⑤川田先生  
→勉強方法のアドバイス

Self-Evaluation Sheet  
～自己評価シート～

①Kindness (相手の立場に立って動画を作成しようとしたか)

十分相手の立場に立った	まあまあ考えた	あまり考えていなかった
-------------	---------	-------------

②Fluency (流暢さ)

改善するところがない	改善するところが多少ある	改善するところがたくさんある
------------	--------------	----------------

③Pronunciation (発音)

改善するところがない	改善するところが多少ある	改善するところがたくさんある
------------	--------------	----------------


④Easy to Understand (分かりやすさ)

改善するところがない	改善するところが多少ある	改善するところがたくさんある
------------	--------------	----------------

【資料3】ワークシート(ジョージア講義)

🧐 ～オンライン講義 from ジョージア～

6年組 番名前 \_\_\_\_\_

講師名 \_\_\_\_\_ 先生 

①ジョージアについて

<メモ>

<特に印象に残ったこと>

②異文化コミュニケーションについて

<メモ>

<大切なこと>

心に残ったこと

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_